

トピックス④

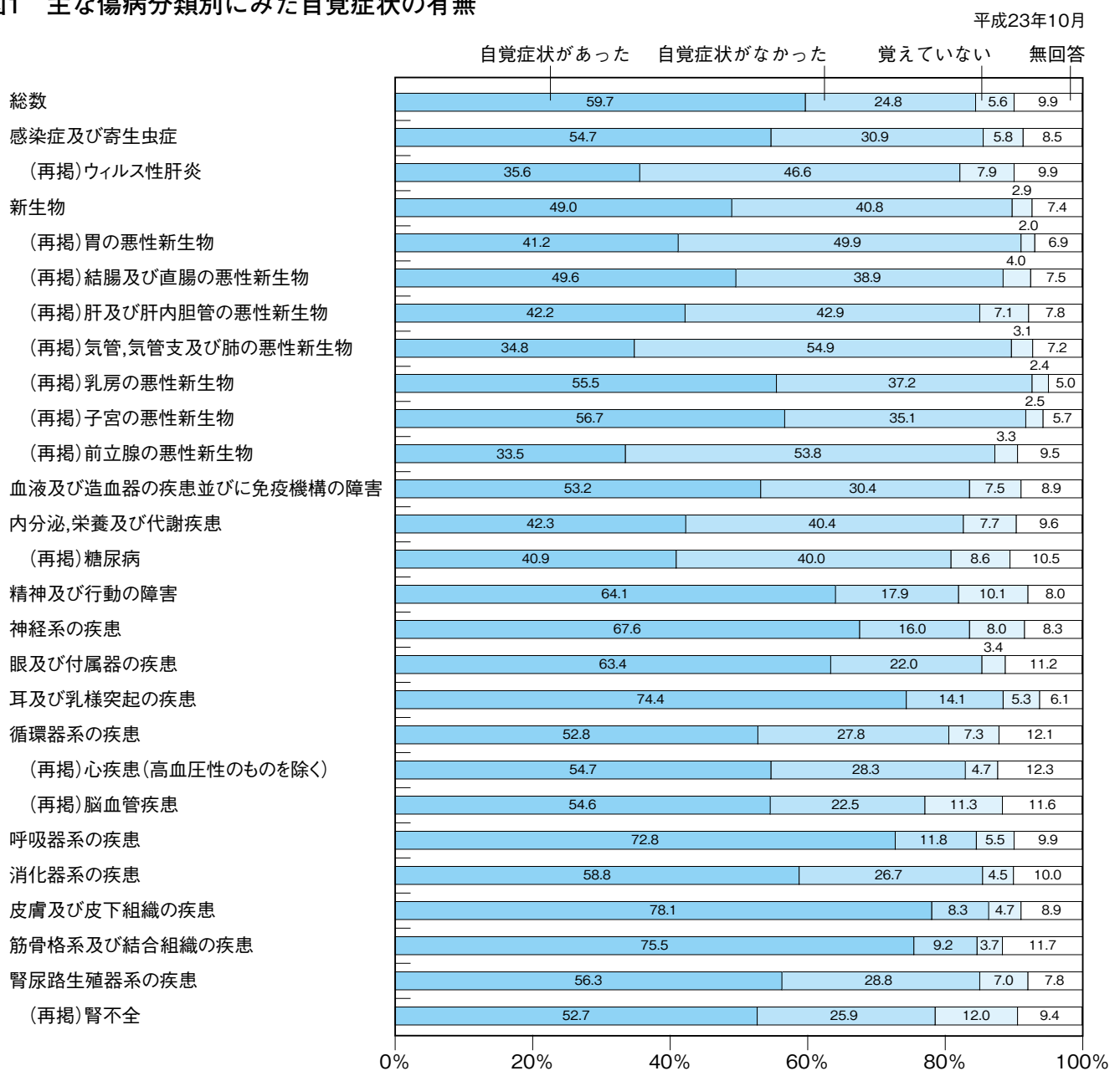
平成23年受療行動調査（確定数）の結果が公表（平成25年2月26日）されました。

本調査は、今後の医療行政の基礎資料を得ることを目的として全国の医療施設を利用する患者に対して医療を受けた時の状況や満足度などを調査しています。集計にあたっては「平成23年医療施設静態調査」および「平成23年患者調査」とデータを結合しています。

(1) 自覚症状（主な傷病分類別・外来患者のみ）

受診した病気や症状を初めて医師に診てもらった時に「自覚症状がなかった」患者の割合を主な傷病分類別にみると、「新生物」では40.8%となっており、「新生物」の中では「気管、気管支及び肺の悪性新生物」54.9%、「前立腺の悪性新生物」53.8%、「胃の悪性新生物」49.9%、「肝及び肝内胆管の悪性新生物」42.9%、などとなっている。（図1）

図1 主な傷病分類別に見た自覚症状の有無



注：1）岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。

2）傷病分類は、「国際疾病、傷害および死因統計分類（ICD-10（2003年版）準拠）」を適用している。

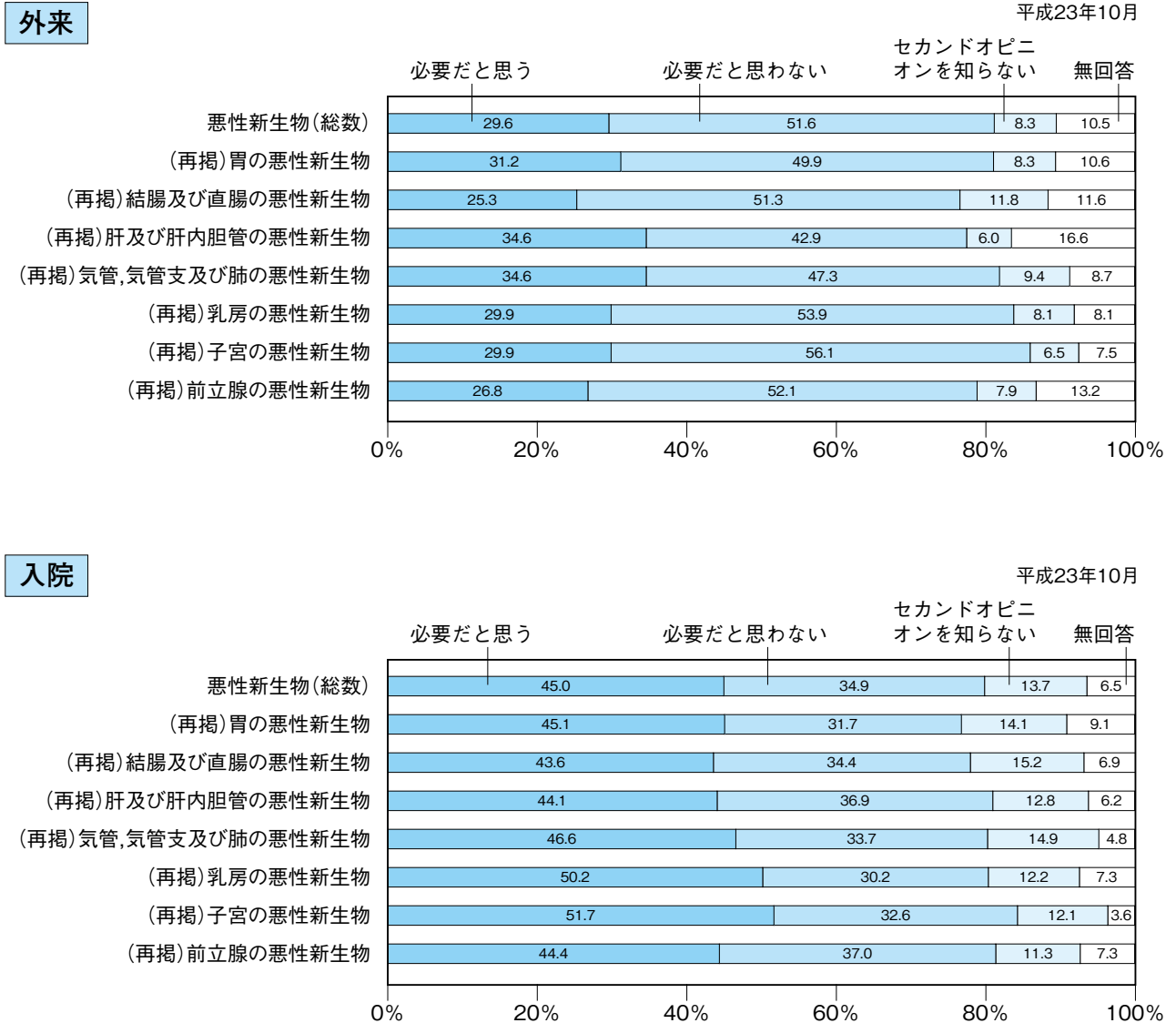
3）外来患者について調査した数値であり、調査票の記入は、原則として患者本人の記入方式としたが、記入できない場合については、家族の方などが補助して記入した。

資料：厚生労働省「平成23年受療行動調査」

(2) セカンドオピニオン（悪性新生物の部位別）

「悪性新生物」の部位別にセカンドオピニオンが「必要だと思う」患者の割合をみると、外来が「肝及び肝内胆管の悪性新生物」、「気管、気管支及び肺の悪性新生物」ともに34.6%、「胃の悪性新生物」31.2%などとなっており、入院は「子宮の悪性新生物」51.7%、「乳房の悪性新生物」50.2%などとなっている。（図2）

図2 セカンドオピニオンの必要性



注：1）岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。

2）傷病分類は、「国際疾病、傷害および死因統計分類（ICD-10（2003年版）準拠）」を適用している。

資料：厚生労働省「平成23年受療行動調査」